

2015年2月の金融経済概況のポイント

—— 主に1月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

- 基調判断は据え置きました。
 - 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」の判断を据え置いています。
- 項目別の判断では、公共投資について、1月は7か月振りに発注額が増えたことから、前月までの「高水準ではあるが、足元の発注は減少している」との判断に代えて、「高水準ではあるが、年度初来累計は前年を下回っている」に変更しました。
 - 公共投資の年度初来累計は、昨年12月までの6か月連続の前年割れが影響しています。

■個人消費の動向

- 1月の大型店売上高は、昨年12月に比べると良くなって来ていますが、なお前年割れ（▲0.6%）の状況です。消費者が商品を厳選して購入する傾向は続いていますが、1月の旭川は雪が少ないだけでなく、暖かかったこと（平均気温：▲5.1℃、平年：▲7.5℃）もあって、冬物衣料の売り上げに影響が出るなど、天候も個人消費に水を差したようです。また、天候不順は野菜の値上がりなどを通じても個人消費に少なからず影響を与えました。

▼大型店売上高

				—— 前年比、%
14/1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	15/1月
+6.3	▲4.0	▲0.7	▲2.5	▲0.6

■観光の動向

- 観光は、引続き地域によってばらつきがみられますが、外国人観光客に支えられて空港旅客数が前年を上回ったほか、旭川地区ホテルの客室稼働率も好調です。札幌周辺から旭川に足を伸ばす外国人観光客もみられるようです。

■雇用の動向

- 12月は統計の上では、新規求人数が減少していますが、実際には職安を通さない求人活動も行われており、雇用環境の実態は統計以上に引き締まっており、人手不足の状況は続いているものとみられます。

■賃金の動向

- 旭川商工会議所が市内企業を対象に行った調査によれば、2014年（平成26年）の賃上げ率は2.8%、賃上げ額は6,190円となっており、賃上げ率、額ともに1997年（9年、3.1%、6,746円）以来17年振りの水準となっています。人手不足が続く中で、所得環境も改善してきています。

■今後のポイント

- 道北地域でも、雇用・所得環境は改善しています。ただ、それが消費を増やすほどの所得の改善にまで至っていないのが現状だと思います。今後、所得の改善がさらに進むかどうか、ポイントになると思われます。
- 観光では、旭川空港の海外直行便について新たな定期便の就航や、今夏の増便が予定されるなど、好調な外国人観光客を継続して呼び込む動きがみられています。こうした観光の勢いを追い風として、今後、個人消費がしっかりと回復するかどうか景気の注目点です。今春の駅前再開発の進展が個人消費を刺激する材料となることを期待したいです。

以上

